

わが幼稚園



河井多喜子

六月の、ある雨もよいの夜でした。訪れたお宅は、高台にあり、木々にかこまれた静かなたずまいで、玄関にお出迎えてくださいましたのは、おだやかな風貌の特殊教育指導主事さまです。

その日の目的は、昨年幼稚園を修了して、小学校へ入学した自閉的傾向のある子どもが、最初の年はまことにうまくいったのに、今年の四月に担任の先生が変わったトタンに、しっけがなっていない。

幼稚園の先生も、一年生の先生も、いったいなにをやっていたのか。

ほかの児童の迷惑になる、等々

さんさんの有様で、親も子どもどうしたらよいかわからないで、キイキイ言っているような状態なので、何とか、現在・将来を考慮し、その子どもにふさわしい道を見つけていただきたいということでした。

まず始めに、問題をもった子どもを受け入れるか、受け入れないかは校長の権限だ、とおっしゃいましたのは、どうも、お逃げになった感じでした。

母親が希望している、新しく開設される自閉症児の学級は、おそらく希望者が殺到し、詮衡がきびしくはいれないのでは

なかるうかとのこと、おだやかな口調で道の行く手をふさがれた感じがして、こちらは、だんだん頭にきてしまっています。

「ほかの父兄もうるさいし、校長は養護学級を考えているようです」とまことに冷静です。この世を、清く、正しく、美しく生きた方はかくも立派です。

表もあれば、裏もある。人生の裏街道、そのまた奥の細みちを、手さぐりで裸、はだしで歩くわたしは、冷たさにも暖かさにもだらしがなくて、汗と涙と鼻水で、ぐしゃぐしゃになるのです。

二歳ごろに言葉を失ったまま、五歳の秋に幼稚園にはいってきた彼が、一年余りで、日常語をある程度話せるようになったのは、普通児の集団にはいっていたからだと思うのです。指導主事をお訪ねした翌日、こどもの母親から電話がありました。母親の声がとぎれた時「幼稚園に行きたい」という声が受話機にはいつてきました。はつきりとは。

はからずも障害児をお引受けして、普通児の中で保育するようになって、三年余りになります。一カ年あるいは二カ年の幼稚園生活のあとに、学校へ進んだ子どももあり、新しくはいって来た子どももいます。

今年の四月に入園した障害児の中には、遠くばしり癖の子ど

もがいて、ちょっとしたとり物を演じる時があります。いつのまにかとび出して、駅を通り越し、海まで行ってしまつてごきげんなのです。三カ月たった現在では、原っぱ行き、うさぎのごちそう摘みなどコースがすむと落ちつきますし、お人形さんのようにかわいい顔をして、うさぎのように無言で無表情だった子どもも、ポケットから紙を出して鼻をふいてという動作をして、顔を見てくださいようになりましたし、「おんぶ」らしき言葉を言って背中を求めるようになりました。何でも自分の思う通りにならないと泣き叫んで、じれていた子どもも、お帰りには、ひぎにのって話を聞いたりするようになりました。

普通児はどうでしょうか、みんな自分たちの仲間という気持ちです。正義の味方もいれば、母性愛型もいます。知らず知らずのうちに思いやりの心も養われますし、色々な場合に処するすべもわかり、お互いに助け合つて仲よく暮している毎日です。

この幼稚園では毎年バザーを開きます。それで得た利益金は、母と子どものために、有意義に使用されるのです。その努力の結晶の尊さは、金額の多いことではなくて、協力・奉仕の気持が生きているところにあるのです。自分が一生懸命に作つたものに、低い値をつけられたと不満をのべる方もないわけではなく、自分はこれだけ骨を折つて、こんなに役に立つて、と

発表なさる方も中にはあります。先生は何をボヤボヤしているのでしょうかというわけです。それほどまでの全面的協力を深く感謝しています。そのうちに、だんだん話がそれて、自分の子どもは何も問題をもってはいない、自閉症児といっしょにされたら、先生の目は全体にはとどかないであろうし、伸びる芽も伸ばしてもらえなくなるのではないでしょうか、と一人が言い出すと、ああそうかとあやうく傾きそうになる方が出てきたりします。

中には、皆の話の時は言い出しそびれたのでしょう。次の日になって「先生、うちの子が普通児で心配のない子と思っているわけではないのですけれども、障害をもったお子さんの治療に、少しでもお役に立てば本当にありがたく幸せだと思います」とこっそり話して下さる方もあります。うれしくて胸がいっぱいになってしまいます。

母親たちは古切手集めもしています。ネパールの子どもを結核から守ろうと身をささげていらっしやる岩村博士に、ささやかな心をお届けするのです。沖繩の問題・ベトナムのこと・イタイタイ病などのことについても、その心を知る努力を続けている母親たちもいることを心から喜び、わたくしもあとに続きます。

ここは、山に囲まれて、桜や松や杉などのみどりて区切られた青い空を見上げる、小さな谷間の、小さな幼稚園です。心をやわらかい子どもが集まって来ます。あひるも仲間入り、いっしょに走ったり、子どもがのったりして遊びます。しらこぼとも美しい姿をしています。かわいい声でなきます。

白いうさぎと黒いうさぎが仲よくごちそうを食べています。これが決定版なのです。しろとくろは、こどもたちと遊んでも楽しいのです。ひなぎくとびや、クローバーくぐりはしませんけれど、あじさいの陰にかくれたり、れんぎょうの横をすりぬけたり、だっこされたり、沈丁花の下にもぐり込んだりします。

こどもたちは、白いうさぎと黒いうさぎの絵本を見ると、幼稚園のうさぎとおなじだねと言ってよろこびます。また、子どもたちはうさぎにごちそうをあげるのが楽しみです。また、子へくすの葉などをさがしに行きます。ついでに真赤なへびイチゴも、お砂のケーキのデコレーション用に摘んだりします。

動植物や砂などをつながりが出来ると、自閉的傾向も徐々にうすらいで、お友だちとの結びつきも出来、ことばも出てくるようになるのが今までの経験でございませう。楽しみです。元気な子どもたちは一層すばらしいのです。汗で前髪が額にくっ

つき、ドロのつけばくろも、ガウンも手も泥だらけです。澄んだ目は何をか語り、口をとがらして、全身で躍動するいのちの言葉を聞かせてくれます。わたしも彼らに負けないくらい汗を流して今日の幸せの仲間に入れてもらいましょ。

「先生、先生、けんちゃんがお友だちの名前を呼んで追いかけていますよ」

かわいいといつては、お友だちの髪の毛を引っぱったり、顔や手をつねったりして、人とのつながりがうまくつかなかった子どものことを、目をかがやかせて伝えてくれる若い先生、そこには、自分の心も、子どもの心も、いとおしみ育てる美しいのちが生きている。静かなえみにあふれるよろこびがある。

「勇ちゃんがおぞうさんを持って来て、お掃除をしているんです」 (言葉がない、ハダシの王子さま)

「あきらくんが、せんせいって言ってくれたんです」 (言語障害児) など

先生も子どもも大喜びで報告です。言葉を失った子どもが、いつのまにか少しずつ話してくれるようになる楽しみは、言い表わすことが出来ないほどです。

お願いを聞いてください。

障害児を預ってあげてください。

言葉はなくても、大ぜいの仲間は欲しいのです。最初は、全然別行動でも、本人は楽しいし、だんだんみんなといっしょに話を聞く楽しみも、何かする楽しみもわかってくるようです。

この園の場合、自閉的傾向、知恵おくれ・言語障害・脳性小児マヒの子どもたちとの小さな小さな経験で、大きなことを申し上げてまことに恥ずかしいことですが。

今から思いますと、貴族の幼児教育を学び、それらしきことをしてふしぎを感じなかつたころから進歩したのか、墮落したのか。

今日を生きる

知恵も力も足りないけれど、あの子に差しのべてあげたい両手がある。ひざがある。背中もあるし胸もある。なんとうれしいことでしょう。(陰の声あり、おこりんぼ先生、何を言っている。ハイ、申しわけありません。自分の心に言い聞かせているのです)

笑ったり、おこったり、時には親切に、時には不親切に心のきずなを、きゅつと結んで

時々、自分の心をむき出しにしてみます。あの人は、自分

の意見と違ふし、いつも反対ばかりするからきらい
お金持はきらい。何だか人を見下げるような感じがするから

大きな顔をする人はきらい

そして、自分の好きなことだけしたい

らしくをしたいし、家族に少し長びくような病人があつたり
すると、神様は不公平だ、など文句たらたら、忙しくつて
山へも行けやしないと

これが本心なのです

反対に自分が迷惑をかけているのをたなにあげて
こんなだめな、自分の力など頼みにならないことを知り
ました

子どもの集まるところに、ふしぎな力があふれます。大きな
力を知りました

助け合つて仲よく暮しなさい、との言葉や、愛と英知と創造
が生きがいであると教えてくださった方の心をかみしめて
います

人の集まるところには、必ず、その心が生きていて、わたくし
はその大きな力を頼みとして、それにひたり、それを受け
て、きょうの一日を生きています。

山がけむる、つゆぞら、雨もまた楽しい心境です

歩きなれたくねくね道

見なれたまわりの山

そこに、わたしがいる

萩のたれた道を歩くわたしは、明日はいないかもしれない

い

だから、きょうが美しくうれしいのです

人の心の暖かさを思い、山や川や海を美しいと眺め、自分
が幼児の時に握つてくださった先生の、あの手のぬくみを、
子どもに伝えることが出来るように祈りつつ送る日々
なのです

(鎌倉聖路加幼稚園)